



IAMAP・IAHS'93 盛会裏に終わる

IAMAP・IAHS'93が、さる7月12日から23日まで、横浜市みなとみらい地区にある横浜国際平和会議場(パシフィコ横浜)で開催されました。日本学術会議や水文関係13学会とともにこの会議を主催した日本気象学会においても、積立金の準備から始まり、実行委員会や各種専門委員会の立ち上げなど、日本で初めてのこの会議を成功させるべく努力がなされてきました。その様子は、このIAMAPコーナーでも何度か会員の皆様にご紹介してきましたので、ご存じのことと思います。会議は、表題にもありますように、おかげをもちまして盛会裏に終了いたしました。開催の経緯やシンポジウム報告から会計報告まで含む詳しい報告が「天気」別冊として近々発行されることになりましたので詳細はそちらを見ていただくこととして、ここでは速報的に簡単なお報告をいたします。

参加者は、40か国1地域から1088名(内、海外627名、国内461名)が来場され、そのほかに同伴者として49名が来られました。提出論文数は1627に上っています。アメリカからの参加が少なかったのは残念でしたが、アジアからの参加が多かったのでアジア地域初開催の意義があったのではないのでしょうか。また、発展途上国の方が参加しやすいようにと設けられた国内委員会提供の補助金(LOC Grant)には多数の応募がありましたが、最終的には73名の方が補助金を受けられました。

寄付は127もの企業から協賛いただくことができました。登録料や各種補助金などと合わせて収入は1億円余となり、正確なことは決算が終了しないとわかりませんが、なんとか赤字を出さなくてすみそうな様子です。

会期中に行われた主な行事としては、開会式と基調講演(7月12日)、レセプション(同日夕)、IAHS総

会(13日夕と22日夕)、IAMAP総会(14日夕と21日夕)、市民フォーラム(15日)、バンケット(19日夕)、閉会式(23日)などがあります。また、14日から16日にかけては、関連企業10社が参加された展示会もおこなわれました。そのほかにも、気象庁や気象研究所への見学ツアーや横浜クルーズも提供されましたし、有名な横浜港での花火大会を見ることもできました。

会議そのものの運営には、質の高い多くのボランティアとアルバイトの方々の協力を仰ぐことができました。気象学会の定期大会でも同じかとは思いますが、これらの方々なしでは会議運営を実質的にできなかったでしょう。また、国内と海外のコンピーナ間の連絡が良くとれていたことも、運営がなんとか無事行い得た理由の一つだと、会期後の実行委員会で指摘されていました。

反省点はいろいろあります。サーキュラーやプログラムなどタイムリーに流すべき情報が遅れがちであったこと、運営方法や内容にワークショップとシンポジウムの区別をもっとつけること、ポスターセッションをもっと重視すべきであることなどは、会期中のIAMAP総会でも指摘されましたし、皆様も同感ではないかと思います。その他に、休憩時間に提供した飲み物の量や種類、銀行事情など多くの点が、会期後の実行委員会席上で指摘されました。これらの事も、「天気」別冊という形で次の世代にノウハウの継承ができればと願っています。

最後になりましたが、事務局の一員として、会員の皆様、ボランティアとアルバイトの方々、会議に参加されたの方々、準備に当たられた各種の委員会委員の皆様は誌面を借りてお礼を申し上げます。長い間のご協力ありがとうございました。(里村雄彦)